コロナ禍における防災減災活動

日弁連 災害復興支援委員会 副委員長 弁護士・防災士 永野 海

「かきくけこ」で生き残る
考えて行動する防災力

2面に掲載した「まちの救助隊チームNAMAZU全体会」での永野海弁護士の講演を紹介します。東日本大震災後、被災地支援と訪問を続けたなかで防災士の資格を取得した永野さんは、石巻市の大川小学校で74人の児童が避難せずに亡くなったことから、既存の情報に縛られず、自分で考えて行動する防災力が生き残るために必要だと強調しました。そしてそのような防災力をどのように身につけるのか、コロナ禍で求められている防災力とは何かについて話しました。（見出し・文責とも編集部）

永野さん

「かきくけこの魔法」という話を小学校での講演や授業でしました。自然災害だけではなくて、いろいろな災害とか、困難に直面したときに、どうやって生き延びるか、その力が防災力です。災害の防災で生き残れる人はコロナでも生き残れると思います。

最初に海に飛び込むペンギンをファーストペンギンというのですが、シャチとかアザラシがいてなかなか飛び込まない。でも誰かが飛び込まないとエサが食べられないので、一人が飛び込むと大丈夫だったというのでどんどん飛び込む。みんながファーストペンギンになる必要はなく、子どもたちにはせめて3人目くらいになった方がいい、後ろにいたら社会の中で生きていけないという話をします。

「かきくけこ」とは何か。「か」は観察する、地元に面白いファーストペンギンがいると子どもにも大人にも言います。大事なヒントは小さなところにあります。それを見るだけではだめで実際に記録（「き」）する。私も新聞を見て切り抜きをして講演のネタにしたりしますが、保存しておく。これは防災でもふだんの事業でも、すべてに大切なことです。観察して記録するだけではなく、そこから自分の頭で、何がこの人はすごいのだろう、自分だったらどう真似ができるのか、自分の仕事だったらどのようなことにつながるのか、自分の頭で工夫（「く」）・検討（「け」）して、最終的には行動（「こ」）する。頭の中でいくら妄想を膨らましても行動しないとゼロです。

ケタ違いのアクセスあった
コロナ支援カード

実際に実践している人がいくらでもいます。ある14歳の中学生は、自分は何も考えずに学校生活を送っていたが、9月入学がSNSで広がっているのを見て、「私はその姿を見てとても尊敬しました。政府が考えることだから、と丸投げにするのではなく、自分に何ができるかを考えいち早く行動することはとても難しく軟弱な意志ではできません。しかし社会をより良くするにはどうすべきか、真剣に考え、行動していく人が増えれば良くなると思います。私もそうなりたい」と新聞に投稿しています。まさに「かきくけこ」そのものです。

コロナになって、私の仕事が止まってしまったときに作ったのがこのカード（図）です。もともと被災者支援で作っていたカードを応用して、あまりにもコロナの支援制度が矢継ぎ早に、省庁間の連携もなく出されたので、一目で分かるものを作らなければいけないと作ったら、かなりアクセスがありました。最終的に何百万と見てもらい、北海道から九州まで取材が来ました。それでこれは災害だと思ったのです。今までいろいろな支援制度のカードを作り、被災地に配ったりして、それはそれでアクセスがありましたが、ケタが違ったのです。47都道府県、全部災害が起こっているのだと、それぞれの人びとの心理状態だとアクセス数を見て思いました。

永野さんが作成した新型コロナ対策支援カード、他に被災者生活再建カードなど、「弁護士永野海」のHPから自由にダウンロードできる

平時の準備が大事
申請は一歩早く踏み出す

自分の頭で考えて行動するということが困難の打開には必要です。皆さんの活動と同じように平時に準備しないことは本当にできませんから、いかに平時にやるのか。例えば今回のコロナだと持続化給付金の申請の時期も人によって全然違うのです。早い人だと5月に申請し、お金が入るのも早いのです。遅くなればなるほど混むから入らない。どれぐらい常に平時から意識しているか、実際に申請する一歩を踏み出すのが早いのかというのがとても大事です。

雇用調整助成金はむちゃくちゃ資料が必要で、いざやろうと思ったら、社労士から、あなたのところの資料ではやるのは無理だといわれるのがかなりありました。今回、コロナを経験した人が雇用調整助成金を申請できるかどうかというのが、事業者としての命を分けますから、どのような資料が必要なのか、何を日頃から準備しておけばよいのか、今回やる人とやらない人と、次の災害に直面したときに変わってくるのです。まさに防災そのものです。

持続化補助金はほとんどの人が使いませんが、今回のコロナの前からこの制度を使って、パソコンなど補助金で買っている弁護士もいます。やはりこれが生き残るための知識です。調べると可能性がある、でもほとんどの人が使っていない。上手に知識をもって申請するとお金に変えられます。これも防災です。

困難が来たとき何を学ぶか

家賃支援給付金も大きな補助ですが、最新の賃貸借契約書などがないとくれない。普通はほとんどの賃貸借契約は更新、更新で昔の古い契約書はあっても最新の契約書は毎回作り直したりしていないのです。大家さんが協力してくれないと申請できないということで、かなり止まっています。これを機に最新版に直しておく。こういう困難が来た時に何を学んで、何の備えに実際につなげるかということが大事です。

休業手当は弁護士も労働者が自主的に申請できるような制度に変えてくれといってきました。休業手当を払ってくれない会社の従業員のための制度ですが、あまり知られていない。わざと知られなくするために長くしているのかというくらい制度の名前も長いのですが、これも知っているか知らないか、休業手当をくれないと嘆いているだけなのか、調べてこういう制度があるから申請してみようと、一歩を踏み出せるかが大きいです。

仲間から

「自助」は自己責任論

塗装　髙橋勇一

「新政権に期待すること」はこれと言ってないです。安倍政権時代、菅首相は7年8カ月のあいだ官房長官をやっていて、首相になる前から安倍政治を「継承する」と公言していましたので。菅首相は総理大臣の就任会見で「自助・共助そのあと公助」を示しました。「自助」は「自分の力で何とかしろ」の自己責任論。国のトップが発言する言葉ではありません。森友・加計、桜を見る会で露呈した国政私物化や沖縄米軍基地の辺野古移設の強行。不況でもコロナ禍のなかでも年々増額されている防衛費は、今年度は過去最大の5・5兆円を概算要求。河井議員夫婦の大規模買収事件もあったけど、安倍元首相の疑惑は首相を降りたら藪の中か？菅首相も疑惑についてこれ以上調査はしないなんて言っているが、真実を国民に知らせる義務があるのではないでしょうか。

コロナ禍でキャンパスが閉鎖された大学生たちがネットを通じて署名活動を始めている。GoToキャンペーンで旅行の費用を補助してないで、GoToキャンパスで公費を入れて学費を半額にし、大変な学生を支援してほしい。若い人たちは国の宝ですから。

（小金井国分寺）

本気で国民と向き合え

大工　中谷登志夫

東日本大震災から来年3月で10年が過ぎようとしている。福島原発の使用済み核燃料から出る高レベル放射性廃棄物の処理問題について、政府の見解はいまだに出ていない。廃棄物処理には地下300m以上に埋設しないとだめという話もあった。また、一部の話では薄めて海へ流す案もあったとか。漁業関係者はやっと戻った海で漁ができるようになったというのに。汚染水を処理するタンクも、設置する場所も満杯になりかけているという。

さて、今度の自公政権、菅総理の対応は、コロナ対策が一番というが、安倍前総理の宿題が山積している。モリカケ問題、桜、のり弁解答、北朝鮮の拉致問題、イージスアショア問題、これらの何一つにも答えていない。国民と向き合って説明をしていくと主張していたが、よく見ていきたい。

（江東）